

発行 佐久市有機農業研究協議会 (発行責任者: 夏川周介) 【構成】佐久市・JA 佐久浅間・佐久総合病院・佐久市農業委員会臼田地区委員会 (事務局) 長野県佐久市臼田787 (一財) 農村保健研修センター内 TEL 0267-82-5800 FAX 0267-82-5801 URL <http://nouson-rhtc.jp/>
活動の紹介は <http://nouson-rhtc.jp/yuukinougyo/> 佐久市有機農業 [検索](#)

アルカリ性の畑に注意を —悪い影響が作物に—

pH7.6以上が45%
(当協議会測定結果より)

5.5 以下	2%
5.6~6.5	11%
6.6~7.0	25%
7.1~7.5	16%
7.6~8.0	34%
8.1~8.5	9%
8.6 以上	2%

当協議会は4年前から畑・ハウスの土の「健康」状態を調べる土壌診断測定を行ってきました。診断は、酸性・アルカリ性をみるpHと土の肥料養分の目安をみるEC(電気伝導度)です。2つとも専用のメーターで測ることができます。

ECは低め、pHは高め

今年度は4回の測定を行い、地域住民の方々の畑やハウスから88の土が持ち込まれました。結果はEC(土の養分量)の値は「適正」か「やや低い」の範囲で問題ありませんでした。一方、pHについては値が高い(アルカリ度が強い)土が多く測定されました。

pHが高い土を持ってきた方々に聞いてみると、石灰を畑に毎年入れ続けていると話していました。日本では雨が多く、土が酸性になりがちです。pHが低い場合は苦土石灰などで調整することは必要ですが、やりすぎはよくありません。

アルカリ性が強い土に起こる「症状」

- 作物の生育に不可欠な微量元素(鉄、マンガン、ホウ素、銅、亜鉛など)の欠乏が起こり、生育が悪くなります。
- ジャガイモのそうか病やトマトの青枯れ病などが発生しやすく、マグネシウム欠乏で葉が黄色くなり生育が悪くなります。

どうする? アルカリ性の畑

- 苦土石灰など石灰質肥料の使用を控える(または、やめる)。
- 土の中の石灰資材を水で洗い流す。

学習会のご案内 —土のpHと養分を測りましょう—

多くの作物は、pHは5.5~6.5の範囲で、ECは0.2~0.5程度がよく育ちますし、無駄なく肥料を使うことができます。測定結果から土づくり・肥料の使い方についてアドバイスも行います。

開催日時 第1回 **4月10日(水)** 集合9時半:12時終了
第2回 **7月4日(木)** 集合9時半:12時終了
第3回 **11月** ※9月1日発行の本紙でお知らせします

会場 当協議会・実験農場管理棟 (一財) 農村保健研修センター西側



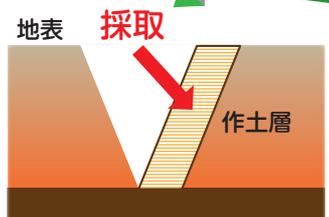
参加費 土壌1試料200円
(一人2つまで、当日持参)

申込先 実験農場 平日9時~17時受付
Tel0267-82-5966

※各回20土壌試料で締め切ります

担当講師 長野県佐久農業改良普及センター 柳澤俊一
当協議会・実験農場長

採土方法



地表のごみ等を取り除き、上下の量が等しくなるよう深さ10cm~15cmで柱状に採る。1つのほ場で4~5カ所から採土し1つにまとめる。

事前に測定したい土を採り、よく乾燥し細かくして茶碗一杯程度お持ちください。

はじめての方でも
大丈夫!



2019年度 有機栽培農園利用者募集

土にふれ おいしい野菜を 育ててみませんか



野菜を育て味わいたいと思っている方はいませんか。農業体験を通して安心して安全な食を理解していただくために、当協議会では、農園を市民の方々に開放しています。毎年利用者から「自分で育てた野菜を食べることができるのは楽しい」という声が聞かれています。

場 所 佐久総合病院老人保健施設(旧美里分院)西側の圃場

募集区画 24区画(1区画約40㎡) ※原則1戸1区画

使用料 1区画年間3,000円 ※使用料納入後に途中解約した場合は、使用料の返金はありません。

使用期間 2019年4月6日から11月末日

申込期間 3月11日(月)から19日(火)の平日 9時~17時まで

(一財)農村保健研修センター窓口にて申込用紙に必要事項を記入。結果は後日お知らせいたします。
※新規申込者を優先。応募多数の場合は抽選により決定。利用上の規則を確認して申込んで下さい。

開園式 4月6日(出)午前10時より、実験農場管理棟にて区画割り抽選、利用上の説明、農園の栽培指導など

問い合わせ (一財)農村保健研修センター 電話 0267-82-5800

佐久市有機農業研究協議会講演会

おいしい野菜を健康に育てるコツ



11月28日佐久市市民創錬センターにおいて、昨年まで3年間続けてきた土づくり講演会を土台に「おいしい野菜を健康に育てるコツ」と題して、伝統農法文化研究所代表の農学博士 木嶋利男先生による講演が128名の参加により行われました。

先生が長年研究されてきた技術・知識を基に、おいしい野菜の見分け方、有機農業の土づくり、農薬に頼らない総合的な病害虫防除のための栽培技術、連作できる作物・できない作物、野菜の原産地による性質の違い、各地に残る伝承農法(裏ワザ)と多岐にわたってお話いただき、目からうろこの話も多かったです。

会場から多数の質問が出され、答えきれなかった質問については、講演会閉会後も時間を延長して個別にご回答いただきました。

アンケート結果からは「分かりやすく、おもしろかった」「連作できる野菜があることに驚きました」「項目を絞ってじっくり話を聞きたい」などの感想もありました。